



浜松観光ボランティアガイドの会

県民の日記念ウオーク

8月27日(日)に当会主催の「県民の日記念ウオーク」が実施されました。暑さから開催が危惧されましたが、当日は快晴だったものの実施可能な気候ということで、総勢54名が参加しました。

今年の浜松はNHK大河ドラマ「どうする家康」で盛り上がり、今回も遠江分器稻荷神社、秀忠公誕生の井戸、浜松八幡宮、椿姫観音、元城町東照宮、犀ヶ崖資料館と大河ドラマの「紀行潤礼」で紹介されたスポットを巡りました。

最初の目的地、遠江分器稻荷神社の西側には徳川四天王の一人、本多忠勝の屋敷があったといわれており、忠勝の娘で真田信之(真田昌幸の長男)に嫁いだ小松姫はここで生まれたのかもしれないと想像が膨らみます。次の秀忠公誕生の井戸では井戸の隣にある石灯籠は元々、分器橋の親柱だったことを、写真で紹介。浜松八幡宮では家康公が隠れた空洞のある雲



みんなで崖をのぞく

立の桶を案内後、お田鶴の方が祀られている椿姫観音へ。ここでは曳馬野の口元にあったため野口町、元浜松と呼ばれていたため元浜町など町名の由来を紹介すると感嘆の声が上がっていました。

元城町東照宮では家康公、秀吉公の銅像と写真を撮る姿が見られました。ここから、浜松城を横目に元奥山線の線路沿いを西に向います。この辺りは上り坂になっているため疲れが出ますが、亀山トンネルの中はひんやりして体を冷やしてくれました。4.5kmを2時間20分ほどかけて最終目的地に到着。犀ヶ崖資料館では手水鉢を泳ぐメダカたちが涼しげで暑さが和らぎました。

入会して初めてのイベント参加でしたが、皆さん楽しそうに歩いているようでほっとしました。自分でも現地を歩きシミュレーションもしましたが、本番では想定とは違う場面も出てきます。アドリブで話す力をつけるには多くの経験が必要だと感じました。先輩のガイドを見ながら「知っている」と「伝える」のは違うということを実感した一日でした。

西ブロック 磯部雅延



雲立の桶の説明を聞く様子

雲立の桶の説明を聞く様子

全国家康公ネットワーク 浜松視察交流会

暑さ真っ只中の8月2日(水)、岡崎・静岡・浜松の3市の商工会議所が交流する『全国家康公ネットワーク』の視察交流会が浜松市内で開かれました。各商工会議所の正副会頭はじめ市関係者ら約40名の一行を、大河ドラマ館見学後、当ガイドの会が浜松城を約45分で案内しました。2グループに分かれて、大見・鈴木・小池副会長の3名と横田会計が先導しながら、特に「浜松城の変遷」のパネル、鉄門周辺、石垣について詳しく説明をしていました。

岡崎市商工会議所の着物で来られた方(会頭さん?)は、とても暑いと汗だくだくの様子でした。また岡崎をアピールする揃いのポロシャツが目立っていました。ある静岡商工会議所の職員さんは「家康公検定」

(9月30日試験)の受験が必須と言われていました。皆さん、ガイドの説明に熱心に聞き入っておられて、当会の役員さんの頑張りが眩しく映り、ふるさと浜松に貢献できていると実感しました。

私どもはここで終了となり、一行は昼食後井伊直政ゆかりの龍潭寺に行かれました。

広報部 柳本幸子(中ブロック)



浜松城の変遷のパネル前

サマーフェスタ in 浜松まつり会館



青空高く浮かぶ大凧

快晴の8月26日(土)、浜松まつり会館にてサマーフェスタが開催され、北ブロックから3名が館内の案内説明役として参加致しました。子供向けの無料イベントとして、「ペットボトル提灯作り」や「御殿屋台乗車体験」、「大凧揚げ体験」があり、家族連れを中心に約550名の来場者がありました。入口前では「キッチンカー」の出店もあり、「スーパーボールすくい(1回100円)」や「ミニコンサート」も行われ、来場者特典として「絵凧無料配布(先着順数量限定)」もあり、まつり会館への入館料は全員無料でした。



御殿屋台乗車体験

地元の方々の来場が多く、会館常設展示の見学者はまばらな感じでしたが、「糸切り合戦はトーナメント制?」「白の字の凧はどこ?(白羽町のお子さん)」などの質問を受けま

した。

屋外では微風にもかかわらず最大で10枚近い大凧がまつり会館上空を埋め尽くしました。また来場特典で受け取った絵凧を早速揚げに行く方々もいました。イベント実施時間は10:00~16:00でしたが、連日の猛暑のせいか午前中の来場者が多く、お昼以降は少なかったです。浜松まつり期間中の喧騒とは違った、のんびりとしたイベントで、楽しそうなお子さんたちと会えた穏やかな一日となりました。

広報部 都築厚好(北ブロック)

座学研修「三方ヶ原の戦いの実像に迫る」



盛り上がる懇親会「焼き鳥 もろ川」にて

8月21日(月)に中ブロック24名にて「焼き鳥 もろ川」にてランチ会を行いました。コロナ後初めての懇親会でした。

ランチ会の後は、クリエートの会議室にて中ブロックミニ研修第2弾「三方ヶ原の戦いについて」、郷土史研究家鈴木康之さんにお話しを伺いました。中ブロック22名、他ブロックより4名、計26名が静かに聴講しつつ、質問コーナーではドラマとの違いについて討論する場面もあり、盛り上がりました。

鈴木さんは三方ヶ原の戦いの研究を、書籍を読んだり、現地に出向いたりして調査をしてきたそうです。特に「三方ヶ原の戦いの場所」については、たくさん本の抜粋をあげては否定と肯定を繰り返し、よく挙げられる「小豆餅、追分説」「根洗説」「権七、大谷説」3つのうち、最後の説を裏づける資料が見つかり、紹介してくださいました。『渡辺忠右衛門覚書』という愛知県図書館所蔵の本です。三方ヶ原の地形や、戦いの具体的な記述もあり、資料としていただきました。

中ブロックでは昨年のミニ研修でも「三方ヶ原の戦い」の場所を巡っていたので、話が広がって質問する会員もいたりして、かなり内容の濃い研修となったのではないのでしょうか。

今回は座学となりましたが、実際に一緒にフィールドワークをする講座をされていますので、機会がありましたら是非参加してみたいものです。



講演会の様子

広報部 久保田絢子(中ブロック)

会員の交流広場

屋久島紀行・宮之浦岳登山と縄文杉を訪ねて

屋久島と言えば「ひと月に35日雨が降る」と言われるほど雨が多く、年間の降水量は8000mm（山岳地帯は10000mm）と世界的にみても多雨な島。1993年に日本で最初の世界自然遺産に指定され、屋久島固有種の植物（ヤクシマシャクナゲ）や動物（ヤクシカ、ヤクザル）も多く生息します。その自然の豊かな魅力満載の島を訪れました。



宮之浦岳山頂

良部島の眺望が素晴らしかったです。

屋久島は島全体が花崗岩の島ですが、土地は痩せ、米作には不向きなので、その代わりに年貢として薩摩藩に収めたのが屋久杉でした。屋久島では樹齢1000年以上の杉を屋久杉と言いますが、この屋久杉を切り出すため、江戸時代から使われた楠川古道を実際に辿ってトレッキング登山を楽しみました。



苔むす森

この古道の途中にある「苔むす森」の神秘さには圧倒されました。屋久島には実に600種類もの苔があるそうですが、スタジオジブリの宮崎駿監督もこの苔むす森を訪れて、そのモチーフを映画「もののけ姫」に描いたとのこと。

屋久島で最も有名な屋久杉は「縄文杉」です。樹齢3000年とも、一説には7200年とかいわれています。縄文杉へのルートは登山口から往復22km、約10時間のタフな行程でした。行程の途中、縄文杉以外の色々な屋久杉の「大王杉、翁杉、夫婦杉」や切り株の下から上部を覗くとハート型に見えるという樹齢3000年の「ウィルソン株」と出会いながら、本命の「縄文杉」に至るといいます。現在は残念ながら「縄文杉」のすぐそばには立ち寄れず、展望台から見ますが、他の屋久杉と比べても神秘的な、王者のような風格、畏怖というか、オーラを感じました。

屋久島の豊かな自然を貴重な遺産として次世代へ繋いでいかねばならないと強く感じました。

西ブロック 谷 晃

屋久島には九州本土の最高峰の九重連山よりも標高の高く、険しい山が8座もあるなど屋久島の山々は洋上アルプスとも呼ばれています。今回、屋久島を訪れた最大の目的が、日本百名山の宮之浦岳（標高：1936m）に登頂することでした。登山道沿いに屋久杉をはじめ、花崗岩の奇岩群や満開のヤクシマシャクナゲを見ながら、アップダウンの続く険しい急登を経て遂に九州最高峰の宮之浦岳山頂に立ちました。山頂から見える九州第2の高峰の永田岳や第6の黒味岳、そして海の向こうの口永



江戸時代から続く楠川古道

新入会員の入会動機



私が入会した動機は中学校の社会科の先生に出会えた事が原点です。日本史の授業中に安土桃山時代と戦国時代の事、明治維新の事など、身ぶり手ぶりで教えてくれた事で私は歴史に大変興味が湧き、それからというもの、色々歴史の本を読むようになり、今に至っています。本も近くの南図書館で借りてきたり、時には歴史の単行本を買ってきたりして読んでいます。

会社勤めも定年延長して、一年前に退職しました。それからトンボ玉教室に行っていますが、やはりこれからも歴史の事に何か関わりを持ちたいと思っていました。そんな時、今年の暮れの新聞に掲載された浜松観光ボランティアガイドの新人養成講座の募集に目が留まり、入会する事に決めました。まだまだ歴史に関しては、分からない事が色々あると思いますが、これから勉強して頑張っていきたいと思っています。以上、これからも宜しくお願い致します。

南ブロック 伊熊友明



私が生まれた町は、すり鉢の底のような地形で空を見上げるといつも浜松城がありました。石垣の横の道は通学路で、マラソン大会も城の周りを走りました。坂ばかりでうんざりでした。私はどちらかというと理系の頭で、覚えることが苦手です。さらに、日曜の大河ドラマの時間になると、酔った父のグタグタ話が始まるため、すっかり歴史が嫌いになってしまいました。成人してからは、歴史好きな父を幸せな人だなぁと思うようになりました。掛川城や長篠の古戦場に連れて行ってあげたら、とても興奮して楽しそうでした。知らなかったことを知ることは、楽しい事です。

子供のころ、いつも浜松城に見られているように感じていたのですが、これからは浜松城からいろいろ見て、楽しい時間を過ごしたいと思っています。

北ブロック 高羽百代



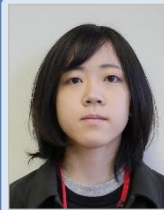
15年前に退職、その後は家内と各地を旅行し、その他の趣味を続けてきました。3年前に家内が亡くなってからは一人暮らしで、50数年続けてきたソフトボールも引退し、今は趣味のラグビー観戦と弓道に行くほかはテレビを見ている毎日です。

こんな生活に変化を求めて「広報はままつ」で募集していた「はままつ案内人」の新人養成講座に参加しました。

今まで各地を旅行する中で、ただ観光するだけよりも現地のボランティアガイドさん達の案内説明を聞けば楽しさも増すことも分かって、私もガイドを試してみたいと思いました。

講習会で先輩方々のお話を聞いて、私にもできるかなと不安になっていますが、認知症予防のためにも出来る範囲で頑張ってみます。

北ブロック 広田純治



浜松科学館で学芸員をしています。科学館の中で浜松の自然やものづくりについて知り、浜松の歴史や文化をもっと学びたいと思い、入会しました。徳川家康や浜松城のことだけでなく、日本史やお城について広く知識を深めたいと考えています。浜松に来て数年のため、地域のことについても、皆様に教えていただけると嬉しいです。

よろしくお願ひします。

南ブロック 水谷穂波

訂正とお詫び

本誌8月号で、新入会員の磯部雅延様のお名前を間違えて表記してしまいました。大変失礼いたしました。お詫び申し上げます。(誤; 磯邊→正; 磯部)

8月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター(浜松駅構内)」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

2日 水 全国家康公ネットワーク 40名

《出前講座》

30日 水 浜松市立神久呂小学校 106名

《浜松まつり会館》

26日 土 まつり会館 サマーフェスタ 594名

《犀ヶ崖資料館》

4日 金 クラブツーリズム 27名

4日 金 独協中高歴史クラブ 14名

5日 土 ノルディックウォークの会 11名

はままつ案内人会報 254号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946 浜松市中区元城町100-2 (浜松城内)

TEL 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地